

した。

〔症例〕脳死肝移植1例目は劇症肝炎にて当院で脳死肝移植登録されていた51歳男性。ドナー情報は50代女性、関東の病院でクモ膜下出血にて脳死と判定された。臓器移植ネットワークからの打診は4月11日午前3時34分。出発まで5時間弱であり、初めての経験できわめて慌ただしかった。移植チーム3名にたまたま病棟にいた外科医になって約10日の廣瀬先生を加え4人で出発。ドネーション中に震度4の地震が発生し、上越新幹線が停止するアクシデントに見舞われたが、緊急車両にてほぼ予定通りに新潟大学病院へ到着し、無事脳死肝移植施行。レシピエントの経過は順調で術後2ヶ月で退院した。

【まとめ】脳死移植を3例経験し、当科の臓器移植の歴史において新たな時代が始まった。また、本年4月には当院に移植医療支援センターも開設され、専属のレシピエント・コーディネーターも誕生した。現在当科は多臓器移植（膵腎、肝腎、肝小腸、肝臓）も可能な施設であり、今後も症例の増加を期待したい。

11 当科におけるPD症例の検討

— PD から学んだこと —

岡本 春彦・田島 陽介・小野 一之
田宮 洋一

県立吉田病院 外科

2006年4月から現在までに膵頭十二指腸切除術を36例（PD20例、PPPD15例、HPD1例）施行したが、その成績について検討した。

【対象】男21例、女15例。膵癌13例、胆管癌9例、乳頭部癌6例、十二指腸癌1例、IPMN4例、慢性膵炎3例。年齢43—84歳（平均67.6歳）。門脈合併切除は8例に施行した。

【結果】術死はなく、術後NOMIを併発した1例を除く全例が一旦退院できたが、8例が1年以内に死亡した。75歳以上の高齢者14例（80歳以上6例）のうち7例が1年以内に死亡した。75歳以上のIPMN2例は1.5年以上生存中であり、

最長4.5年生存している進行胆管癌症例も認められた。膵腸吻合部の明らかな縫合不全は3例に認められたが、それらを含めて再手術を施行した症例は、NOMIを併発した1例のみであった。

【まとめ】高齢者の手術例は少なくはなく、その予後は良好とは言えないが、手術を行う意義はあると考えられた。

12 当院で気胸の手術を行った Birt-Hogg-Dube 症候群の2症例

岡田 英・渡辺 健寛

国立病院機構西新潟中央病院
呼吸器外科

〔症例1〕53歳、女性。左気胸歴あり。2011年5月に左気胸再発し他院より紹介され転院した。CT上左上葉主体に約4cmまでのブラが多発し、エアリークが遷延するため胸腔鏡下ブラ切除及び被覆を行った。体幹に突出する疣贅あり、精査したところBHD遺伝子変異を認めた。

〔症例2〕55歳、男性。過去3回右自然気胸発症し他院で治療を受け2011年6月当科紹介された。受診時右気胸再発しており入院ドレナージ開始。CTでは両肺の腹側、横隔膜付近に約5cmまでのブラが多発し、再発予防のため胸腔鏡下ブラ切除及び被覆を行った。鼻頭頂部に突出する疣贅あり、同胞に多発肺嚢胞、気胸、腎細胞癌の既往があるため精査したところBHD遺伝子変異を認めた。

遺伝子診断を得たBHD症候群症例について文献的考察を加えて報告する。

13 S⁶を温存した肺底動脈大動脈起始症の1切除例

白戸 亨・篠原 博彦・橋本 毅久
土田 正則

新潟大学大学院 呼吸循環外科学分野

症例は15歳、女性。自覚症状なし。高校入学時の検診で異常影を指摘された。前医でのCTで左